

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表 : 令和5年3月31日

事業所名 デイサービスセンターあおば

保護者等数(児童数) 22 回収数 21 割合 95%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	52%	5%	0%	43%	・見学の際に一度しか中を見た事がなく、活動の様子を見る機会が少ないためわからない。	・法律上は規定を満たしている。 ・面談等を活用して事業所内を見ていただく。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	81%	0%	0%	19%		
	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境*1になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	86%	0%	0%	14%	・普段どういった活動をしているか見てみたい。家でも出来る事がないか、声掛けや促し方などどのようにしているのか。	・面談等を活動し活動の様子を見ていただく他、活動の様子を動画で撮影し見ていただく。
	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	62%	5%	0%	33%	・一度しか中を見た事がないためわからない。	・面談等を活用して事業所内を見ていただく
適切な支援の提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画*2が作成されているか	100%	0%	0%	0%		
	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	100%	0%	0%	0%		
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	100%	0%	0%	0%		
	8 活動プログラム*3が固定化しないよう工夫されているか	85%	10%	0%	5%		
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	47%	5%	24%	24%		
保護者への説明等	10 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	95%	5%	0%	0%		
	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明がなされたか	100%	0%	0%	0%		
	12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング*4等)が行われているか	86%	9%	5%	0%		
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	95%	0%	0%	5%	・職員によって対応に差があるように感じる。	・職員間で対応に差が出ないよう丁寧な説明を心掛ける。
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	90%	10%	0%	0%		
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	20%	20%	25%	35%		
保護	16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	89%	0%	0%	11%		
	17 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	90%	0%	5%	5%		

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表：令和5年3月31日

事業所名 デイサービスセンターあおば

保護者等数(児童数) 22 回収数 21 割合 95%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
者への説明等	18 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	85%	5%	0%	10%	・行事を実施しているのであれば伝わりにくいように感じる。	・連絡帳に行事の様子を記入する他、広報誌や定期的にブログを更新し、情報を発信する。
	19 個人情報の取り扱いに十分注意されているか	100%	0%	0%	0%		
非常時等の対応	20 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか。	90%	5%	0%	5%		
	21 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	75%	0%	0%	25%		・ブログに行事予定を掲示する他、訓練の様子等を載せるよう検討する。
満足度	22 子どもは通所を楽しみにしているか	75%	20%	0%	5%		
	23 事業所の支援に満足しているか	95%	5%	0%	0%	・どのように過ごしているか見たことがないため、支援内容や活動が理解しにくい。もう少しオープンな方法で発信してもらえると嬉しい。	・活動の様子を動画に撮り、面談等を利用して活動の様子を見ていただく。

\*1 この部屋で何をするのかを示せるように、机や本棚の配置など、子ども本人にわかりやすくすることです。

\*2 児童発達支援を利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のことです。これは、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の児童発達支援管理責任者が作成します。

\*3 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のことです。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されています。

\*4 保護者が子どもの行動を観察して障がいの特性を理解したり、障がいの特性を踏まえた褒め方等を学ぶことで、子どもが適切な行動を獲得することを目標としています。

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和5年3月31日

事業所名    デイサービスセンターあおば   

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	67%	33%		・他事業所に比べ決して狭いわけではないが、構造化しているため狭く感じてしまう。構造化の見直しを検討。
	2 職員の配置数は適切である	83%	17%		
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	83%	17%		・構造化はされているが、適切であるか都度見直す。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	83%	17%		
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	83%	17%	・事業所内のミーティング、会議等で検討している。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%		
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%		
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	33%	67%	・法人内の内部監査、監事監査を実施している。	・第三者評価の受審はしていないが、毎年法人内の福祉サービス評価を行い業務改善に取り組んでいる。今後、第三者による受審を検討する。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	・ZOOMを用いた内部研修や外部研修を受講。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%	0%		
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	100%	0%	・PEP-Rの活用。 ・遠城寺式乳幼児分析的発達検査をベースにしたものを使用。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	83%	17%	・ガイドラインを示して個別支援計画を説明。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	100%	0%		
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	83%	17%	・立案は主担当者が行うが、児童発達支援管理責任者等に相談・確認した上で全職員が確認している。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	83%	17%		
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	83%	17%		
17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	・朝、PMのミーティングで支援目標、協力要請、振り返りを行っている。		

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和5年3月31日

事業所名 デイサービスセンターあおば

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	・朝、PMのミーティングで支援目標、協力要請、振り返りを行っている。	
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	83%	17%		
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%		
関係機関や保護者との連携	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	83%	17%	・概ね児童発達支援管理責任者が参加し、状況を把握し対応。	
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	40%	60%	・保育園等を利用されている場合、関係機関と連携を図っている。 ・送迎時に園の先生や電話等で話を聞いたり、事業所での様子について伝えている。	
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0%	100%	・該当なし。	
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0%	100%	・該当なし。	
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	・移行支援になるかはわからないが、併用している園との情報共有の際に支援内容について説明する事がある。	・今のところ該当者はいないが、移行する際には情報共有等を行う。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%		
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	・新型コロナの影響で外部研修は少ないが、受講する機会を設定している。	・必要に応じて助言等を受ける。
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	33%	67%	・障害のない子どもと活動する機会は設けられなかったが、地域の公園を活用しての外出・遠足・製作作品のプレゼントを行った。	
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	67%	33%		
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	・連絡ノートや日々の申し送りでの情報共有を行っている。	
31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	83%	17%	・保護者学習会の実施。 ・相談があった際は個別に受け、どのような対応が良いのか家庭でできる範囲の提案を行った。		
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	80%	20%	・契約内容の説明時に行っている。	
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%		
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	・問い合わせがあれば、相談を受け提案している。	

児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和5年3月31日

事業所名 デイサービスセンターあおば

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	50%	50%		・保護者懇談会の開催を予定していたが、新型コロナの影響で中止となった。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	・相談があった際には出来るだけ早く日程調整を行う、電話に切り替えて対応する等を行った。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	・広報誌（あおばだより）、ブログで情報を発信。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%	・個人情報取り扱い同意書に記入してもらい、同意書に基づき取り扱っている。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	・PECSの活用や視覚的提示。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	67%	33%	・招待まではいかないが、広く意見を拾うため、地域交流会の形を変え、アンケート調査を実施。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100%	0%		
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	83%	17%	・月1回避難訓練を実施。（地震・火災・風水害・感染症・不審者）	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%	0%	・利用前に基本情報調査票に記入してもらい確認している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%	・昼食や必要に応じたおやつ等は各自持参してもらっている。おやつ作りの際は都度保護者に確認している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	・実際に起きた事例を支援会議・運営会議にて検討し、回覧し周知している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100%	0%	・内部・外部研修を受講。受講者は復命書を作成し、研修内容を周知している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	100%	0%	・マニュアル整備。研修の実施。保護者に事前に説明し、支援計画書に記載し同意を得ている。またやむを得ず身体拘束を行う場合の共通理解はしている。	